

仲間作り教養コース ④ 国際社会学

EUの生いたち、経済状況
& 離脱問題を考える

第四回

EUの経済規模と今後の展望

日時 10月27日(土) AM10:00~

会場 鶴瀬公民館 第三集会室

講師 高崎 春華氏 (東洋英和女学院大学准教授)

受講生 39名

講義内容：

EU経済の現状と課題とは？

EU経済統合の展開

世界の中のEU・EU経済の現状

☆現代世界経済の特徴

1. 地域経済統合について

配布資料 さあ受講生への質問です。

米日の基本経済データから読み取れること



講師 高崎 美華氏

各国のグループ分けをしましょう

細かい数字から何を読み取れるのか、大学生への質問と同じ？

おさらいです。経済のグローバル化 (globalization) とは

ヒト・モノ・カネ・サービスetcの移動が地経規模で起こっていること。

ここで問題は、そう簡単には国境を超える事ができないこと。国家主義

2. 地域経済統合について

21世紀前半の世界経済の潮流はグローバル化と地域統合の時代
歴史的に見ると
地域的経済統合 地域統合は世界で370を超える地域統合協定

EU（欧州連合）の実力 総面積は日本の約10倍
人口は日本の約4倍
経済規模の比較 GDP成長率、一人当たりGDP、他の
経済指標から見る—北米自由貿易協定（NAFTA）が圧倒

3. 統合の5つのステップ

国家としてのEU、B・バラッサの理論、
FTA（自由貿易協定）—経済統合の利益
市場統合—EU内のどの国においても自由
にサービスを提供ができる

域内市場形成の道

☆スパーク報告（1956年）アメリカと原加
盟国が競争するために EEC条約の作成

1968年 関税同盟完成

1968年 CAP域内農産物市場の安定（フランスの主張）EU内の財政を圧迫
零細農家との格差拡大

域内市場形成—EU経済の長期低迷、産業調整に遅れ、EM化の立ち遅れ
経済の低成長が低成長を生む悪循環

80年代からの経済自由化とグローバル化の進展

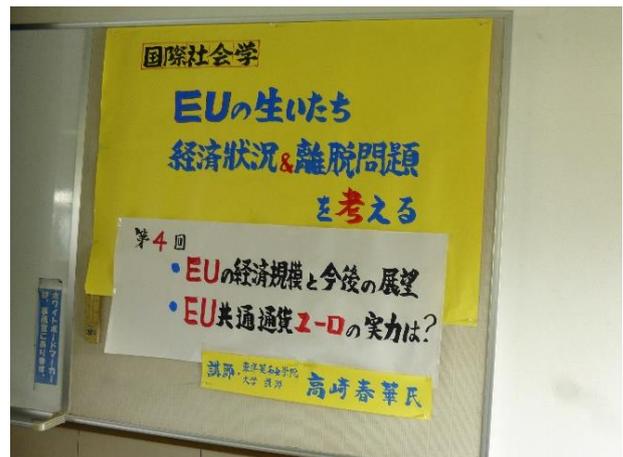
☆チェッキーニ報告（1988年）コスト削減、寡占間競争—GDP比2.1~3.7%の
経済成長

市場統合の利益約2,160億EU（日本円で30兆円）

市場統合に向けた法整備~1992年 1993年EUの単一市場スタート

単一市場の強化

- ① デジタル単一市場
- ② 金融サービス統合の高度化
- ③ エネルギー瓶や野単一市場化
- ④ 単一市場のインフラ構築⑤他の加盟国への年金制度移転を可能にする税制改正



単一通貨「ユーロ」の誕生

EMU：経済・通貨同盟

歴史的経過と国際金融のトリレンマと通貨統合

- ① 自由な資本移動
- ② 固定為替相場制
- ③ 金融政策の独立性は同時成立しない

1986年東西ドイツの統一

1992年通貨危機

イギリスのブラックチュウズデー EMSから離脱 15%変動

マーストリヒト条約に基づく単一通貨ユーロ導入 2002年 1.1~2.28

現在加盟国は 19カ国

F B C：機構と機能

連邦型中央銀行、ユーロシステム 機構については講座の前半で学習した

F C Bの政策目標 物価安定

マーストリヒト条約、欧州銀行法に定められた法的義務

政治からの中央銀行の独立性を維持



国際通貨としてのユーロ

☆ユーロ圏—ユーロを自国の通貨として利用する諸国から構成される

19カ国で経済規模は、GDP 11,2兆ユーロ、人口 3億 3100万人

- ・貿易契約・決済通貨 貿易面に於いてはアメリカと並ぶ巨大エリア
- ・世界の貿易契約・決済通貨に用いられる通貨比率

ドル (59.4%) EU15 (25.2%) 円は凋落して (6.3%) ドルが圧倒的

- ・国際投資通貨 ユーロ建て債券の比率が上昇

参考文献の紹介があった。